

八王子

水のまちニュース

第15号
令和2年2月

八王子市水循環部
水環境整備課
042-620-7291(直通)

秋の湧水散策を開催しました

毎年ご好評を頂いている「湧水散策」を今年度も実施しました。

当日は、晴れ渡る秋の空の下で、20名の参加者が中野山王にある子安神社に集合し、都立小宮公園を經由して船森公園までの約5kmの道のりを、湧水の名所や水路を巡りながら歩きました。



1. 実施日：令和元年11月16日(土)
2. 巡行時間：約3時間
3. 散策経路

子安神社 → 喜福寺 → 名綱神社 →
小宮公園内大谷弁天池 → 竹の花公園 → 船森公園

今回紹介した湧水地のほか、市街地周辺8か所の湧水を掲載した「湧水めぐりマップ」を、市民センターや図書館などで配布しています。

これから暖かい季節になるので、「湧水めぐりマップ」を手にとり、皆様も足を運んでみてはいかがでしょうか。



第9回あさかわ写真コンクール結果発表



一般の部
最優秀賞
設楽誠一さん
『秋、ふれあい橋の
夕焼け』



中学生以下の部
最優秀賞
城ヶ崎一心さん
『晩秋の浅川』

「第9回あさかわ写真コンクール」では312点の応募作品の中から30点が入選し、表彰式を昨年11月2日に多摩平の森ふれあい館（日野市）で行いました。最優秀賞のお二人から、それぞれ作品への思いを語っていただきました。



集合写真（入選者・八王子市長・日野市長・協賛企業）

八王子市では、入選作品を使った令和2年（2020年）カレンダーを1部400円で水環境整備課（八王子市役所本庁舎2階）にて販売しています。

また、「第10回あさかわ写真コンクール」の募集は4月下旬から8月下旬頃までの予定です。皆様のご応募をお待ちしています。

まちの話題

「ハラシマ清掃隊」の活動

今回は、「水辺の水^{みまも}り制度」に登録し、地域の美化活動に取り組まれている“ハラシマ清掃隊”を紹介します。

“ハラシマ清掃隊”は、今年度（令和初！）「水辺の水^{みまも}り制度」に登録いただいた団体で、都営中野団地の北側水路を活動範囲とし、水路とその周辺部まで含めた清掃や除草を担当いただいています。



以前から個人的に美化活動に取り組まれていた方々が、たまたま近くを訪れた市職員との会話がきっかけで「水辺の水^{みまも}り制度」を知り、登録に至りました。

団体名に入っている「ハラシマ」ですが、実はメンバーに「ハラシマ」さんはいません。この地域で日頃お世話になることが多い「ハラシマ」さんへの敬意を込めて、名づけられたそうです。

清掃活動は年間を通じて定期的に行われており、活動範囲周辺は、常に美しく保たれています。

夏場は除草が大変ではあるものの水のながれが涼しげで心地良く、逆に冬場は、思った以上に水が温かいとのこと。水が果たす役割の一端を感じられますね。



活動について代表の志村準治さんは、「これまで市の公園アドプト制度に登録して近くの公園をきれいにしたり、地域の道路もきれいにしてきた。活動は楽しい。身近なところから八王子を良くしていきたい」と語っていました。また、一緒に作業をされていた舟山三四郎さんは、「地域がきれいになるのは気持ちがいい。これからも活動を続けていきたい」とお話しをいただきました。今後も、“ハラシマ清掃隊”のみなさまには安全第一で作業をしていただきたいと思います。

イベント情報

今年度も水辺のオープンカフェを開催！

四季折々の魅力的な景観を有する浅川や南浅川に親しんでもらうため、浅川と南浅川の合流点を臨むことができる多賀公園北側広場で、3月下旬頃にオープンカフェを開催します。

浅川を目の前に、コーヒーを楽しみながらくつろいでみてはいかがでしょうか？



☕多賀公園（元本郷町 4-19）へのアクセス☕
JR中央本線「西八王子」駅から「市役所経由櫛原町」行き、「市役所入口元本郷公園東」バス停下車、北西へ徒歩5分

～ヨシノボリ類～

川や湖などにすむハゼ科の魚で、種類が多く体の模様も様々です。腹びれが吸盤状になっていて、川底の石などに張り付くことができます。石の下に隠れていて、市役所付近の浅川でも見ることができます。

もともと回遊魚（海から川へ帰ってくる魚）ですが、川や湖で一生涯を過ごすものもいます。

ヨシノボリの名の由来は、川を登る時、岩などを登る様子が植物の「ヨシ」を登っているように見えるからとも言われています。

なお、カワヨシノボリは眼から口先にかけて2本の赤っぽい線があるのが特徴です。



～編集だより～

昨年は元号が平成から令和に変わり、時代の節目を迎えましたが、秋には台風15号・19号による災害が広域で発生し、八王子市内でもその影響が現在も残っています。被災された皆様にはお見舞いを申し上げますとともに、少しでも明るい気持ちとなるような、楽しい話題を提供する情報誌をこれからも発行してまいります。